

# スクラム

東京清掃労働組合墨田支部機関紙

2009年1月4日(日)

第40号

教育宣伝部発行/教宣部長 関根 猛

新年あけましておめでとうございます。



組合員の皆様、明けましておめでとうございます。本年も組合員の労働条件・勤務条件の向上にむけて全力で取り組んでまいりますので、よろしくお祈りいたします。

さて、昨年は、サーマルリサイクルの本格実施という23区清掃事業の一大転換がされ、われわれの労働条件のみならず住民の皆様のごみ排出を取り巻く環境も大きく変更がされることとなりました。分別区分の変更により、不燃ごみが陶器やガラス、金属等に純化されたことから、ガスボンベ等危険物の混入による車両火災が多発し、担当の組合員はもとより住民の皆様のお安全な生活すらも脅かす事態が生じました。

現在は、袋をひとつひとつ全て破り、危険物を選り分けながら収集を行っていたことから火災は一定鎮静化していますが、常に予断を許さない状況であります。既に合意した平成21年度作業計画では、残念ながら不燃の積載基準を下げることは適いませんでしたが、当初の減車提案は撤回させることができました。しかし、危険物の別途回収等、職員と住民の安全を守るための措置については、早

急な実施を当局に強く求めているところであります。

また、可燃についても依然としてごみ量が安定せず、皆様に連日たいへんご苦勞をおかけしているところです。年末作業は皆様のご尽力により無事終了することができましたが、本日より始まる年始期間の作業については、はたして推計どおりにごみ量が収まるのか危惧するところです。極めて困難な作業が予測されますが、安全作業を最優先に、事故・けがのないように十分にゆとりを持って作業を行っていただきたいと思っております。

一方、勤務条件に関わっては、わが組合として3度目となる、08賃金確定闘争を闘った結果、成績率制度の改悪提案については、一律拠出範囲・割合を縮小させ、また、扶養手当を勤勉手当の基礎額から控除し原資とすることも3年先送りさせることができました。取り巻く情勢等から白紙撤回は適いませんでしたが、総決起集会をはじめとした様々な闘いを組合員の総力で闘った成果であると考えています。昇格時のメリットについても、経過措置がついたものの、改善を勝ち取ることができましたし、他団体にさきがけで勤務時間の短縮についても実施されることとなりました。これについては、各区事項が多く含まれているため、休憩時間の廃止や休憩時間については現在墨田区当局と協議を進めているところです。

移管以降の間、事業関係では資源・皮革・粗大が民間委託され、また賃金をはじめとした勤務条件全般についても極めて厳しい状況となっています。いずれにおいても、国全体の労働者、とりわけ現業労働者を取り巻く状況、さらには区の退職不補充方針等を踏まえれば、あらゆる事項について勝ち取る事が難しい情勢であると言わざるを得ません。併せて時間内組合活動の見直しにより、われわれの機関運営も困難な状況のなか行っているところですが、闘いを放棄することは労働条件・勤務条件すべてを投げ捨てることです。したがって、次々と壁が立ち塞がってきますが、全組合員の総力で立ち向かわなければなりません。あきらめることなく闘いを継続するために、支部の組織強化、東京清掃全体の組織強化が必要不可欠です。

そのためにも今年一年、全組合員のパワーの結集と更なる団結をお願いし、年頭の挨拶とさせていただきます。本年もよろしくお祈りいたします。

2009年1月4日

東京清掃労働組合墨田支部 執行委員長 山崎 富康

同

執行委員一同